

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1011	タイプ	公募型
派遣国	セルビア共和国		派遣都市	ベオグラード	
受入機関	PE Electric Power Industry of Serbia (EPS)				
受入機関概要 (事業内容等)	発電、配電、石炭採掘を担う国営企業 発電量:37443MWh 採掘量:39Mt 従業員数:31569人 (当時のデータ)				
派遣期間	2014年9月3日 ~ 2014年11月29日				
現在の所属先	中央大学	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	経済学部	所在地	東京都		
区分	学生	性別	女性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は以前から、大学で学んでいることが社会でどう使うことができるのか、海外で働くとはどういうことかを知るためにインターンシップを探していたところ、母からこのインターンシップ事業について教えてもらいました。専攻している経済と環境に深く関わっているという理由で、数あるプログラムの中から、電力会社であるセルビアの電力公社を派遣先の第一候補として申し込みをしました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

まず、英語で書かれた各種報告書や経済白書、環境白書などを読み込みました。2ヶ月目からニコラテスラ火力発電所、コルバラ石炭採掘場、コルバラ火力発電所、コストラツツ火力発電所、ジェルダップ水力発電所を実際に訪問させていただきました。3ヶ月目にはセルビア環境保護局で環境対策について、エネルギー鉱業省でガスやオイルの市場に関わる規制や近隣諸国、EUとの協力、今後のエネルギー戦略や再生可能エネルギーについてレクチャーを受けました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

セルビアは現在EUに加盟するため、発電分野においてEUの基準に合致することを目標とした環境対策や資源効率対策、環境保護活動などを実施しています。インターンシップを通じてこれらのことについて広く深く学ぶことができました。また、与えられた英語の資料やレポートを読んで勉強し、石炭灰利用というテーマを自分で設定して、実際に現場調査を行いレポートを作成するという貴重な体験もできました。意思疎通、調査、報告の全てを英語で行わなければならなかったのがかなり苦労しましたが、結果的に英語力がかなり向上しました。

様々な場所や部署に実際に行き、それぞれの異なる立場や見方を直接伺うことができたのがとても良かったです。これにより物事を多面的に捉える思考力が向上したと思います。

インターンシップ風景



ニコラテスラ火力発電所A



ニコラテスラ発電所B
石炭灰貯蔵場

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

現在、私は中央大学の経済学部4年生です。長谷川教授の国際経済ゼミに所属し産業連関分析について学んでいるとともに、FLP環境プログラムのハリスン教授の環境政策ゼミで環境政策について学んでいます。インターンシップの経験を大学のゼミで紹介したところ、先生から石炭灰の利用は大変難しい問題だがよく勉強できているという反応がありました。友人には積極性を高く評価されました。今は、日本の途上国へのインフラ輸出と石炭灰の利用について卒業論文を執筆中です。セルビアで考えたことを深めるとともに、現地で調査したことを取り入れた形でまとめたいと考えています。

インターンシップへ行く前は、自分のキャリアプランは漠然としていました。なんとなく途上国の発展に関わる仕事に携わりたいと思っていましたが、どんな分野でどのような仕事をしたいかは全く考えていませんでした。しかし、セルビアの発電関連国営企業でインターンシップを行ったことで、途上国の経済発展の支援として、発電事業からインフラ整備を行うことで経済発展と環境問題への対処に大きく貢献することができるようになりました。そこで帰国後、この分野の企業を中心に就職活動を行い、最終的に電力プラントの建設とその保守を中核事業とする株式会社クリハントより内定を得ることができました。面接では積極的にセルビアでのインターンシップの体験について話をしたので、そのことが評価されたのだと思います。

同社は、日本の殆どの発電所の電気・計装・機械工事に参加してきた実績を持つ独立系総合エンジニアリング会社です。現時点では、勤務地、配属先は未定ですが、入社初年度は発電所にて研修を受ける予定です。

同社は、国内事業だけでなく、開発途上国を含め20数カ国に海外事業を展開しており、特に、電力需要が高まる新興国に対して専門家の派遣、技術者育成の受け入れなどを行い、技術移転を積極的に行っています。可能であれば、海外事業部門で働き、インターンシップの経験を活かして海外でのインフラビジネスをサポートする仕事がしたいと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

海外へのインターンシップはハードルが高いと思っていましたが、経済産業省、HIDA、JETROのみなさんの強力なバックアップがあれば、あとは自分の気持ち次第でした。このような素晴らしい方々に支えられながら自分の先行き不透明なチャレンジができる機会はまだ2度と無いと思います。このインターンシップには自分のやりたいこと、将来の希望のためになるプログラムがきっとあります。また、参加することで大きな収穫があるとともに、予想していない形であっても自分の希望をかなえるキーポイントにもなります。まずは応募するだけなら大きな負担は無いのでチャレンジされてみてはいかがでしょうか。